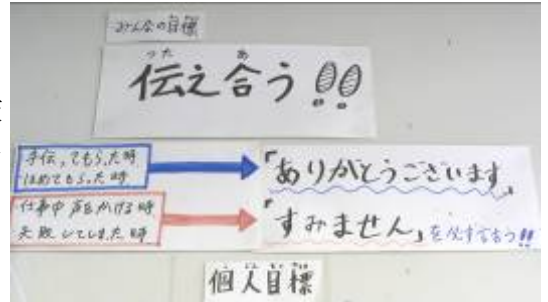


ecoS 通信



感動の輪が広がる

エコス通信4月号を読んでいたいただいた、出雲養護学校進路指導部長 長谷川様から下記のような大変うれしいメールを頂きました。



学校では、生徒さん自身の努力はもちろんだが、彼らを指導する先生がたのご苦労も大変なものがあるだろう。

子供たちの適性を見つけ、就労の意欲を育て、さまざまな職業訓練を行う。そして、彼らを社会に送り出す。その目線は、かわいいわが子を旅立たせる親の心境に似た、不安と期待に満ちた「やさしさ」にあふれているはずだ。

その養護学校の先生が、弊社のエコス通信4月号「社風を守る」藤原社員の記事をお読みくださり、卒業生の活躍する姿に感動していただいた。大変ありがたいことである。受け入れ企業としては、地域の大事なお子さんを預かる立場として、身の引き締まる思いと共に、少しでも地域に役立つ企業でありたいと願うのである。

長谷川先生の感動メールに感謝申し上げます。(長野)

とても感動させていただき、この気持ちをお伝えしたくて、メールしました。

一面の記事で・・・

面倒なこと、汚れることをいとわず、真っ黒になりながら、地域のお客様のところで仕事ができることを喜んでいる藤原さんの姿を、会社のよき社風として、大きく取り上げ、誇りとまで言っているのではないですか！！

このことは進路指導をさせていただいている私や、一緒に指導に当たっている学校全教職員にとって大変名誉なことであり、喜びであります。教頭と涙を潤ましなが喜び合いました。

このように、卒業生たちが活躍してくれるような進路指導をこれからもしていかなければならないと心に誓いました。ぜひ生徒たちに先輩の姿を紹介したいと思えます。ここまでご指導いただき本当にありがとうございます。これから彼が益々御社の戦力となるようご指導ください。(長谷川様より)



写真等は、出雲養護学校での授業風景。

お客様訪問

生鮮食品おだ 出雲店 様

〒693-0058

島根県出雲市矢野町864-1

TEL 0853-24-8060

FAX 0853-24-8061



果物売り場の形部様（写真左）と中筋様（写真右）。中央は、店長の目次様。当店の果物は、新鮮で安い!!

生鮮食品が安い

出雲店は平成15年1月にオープンした。生鮮食品が新鮮で安く、地元には衝撃が走った。口コミでまたたく間に、「おだ商店は、品物が新鮮で安い」と広まった。地元民はだれでも知っている。「おだ商店は、安い」

そのヒミツは、チラシ広告を打たないから、その分の経費がお客様に還元できるというものだ。

もともと、出雲市は農業がさかんな土地で、地元スーパーが市場を独占していた。そこへ、おだ商店は価格で競争できると、出店したのだ。ねらいは当たり、「良いものを安く」をモットーに、今日に至っている。

福山市に本店を置くが、もともと八百屋からのスタートで、生鮮食品がメインであり、得意分野であったのだ。



鮮魚売り場チーフの長岡様。地元で獲れた旬の鮮魚がたくさん並んでいます。どれも素晴らしく活きがいい!

安いのキッチン?

ボリューム満点の総菜

総菜売り場はオープンキッチンになっている。お客様から常に見られているという、良い緊張感をもって商品を作っている。生鮮食品だけでなく、総菜が安くおいしい。特に揚げ物だ。揚げ油は毎日、多いときは1日に2回も交換するので、油っこくないのだ。油が酸化していくし、油が汚れて商品の味が悪くならないようにしている。総菜係が試食した上で、自信をもって売っている。出来立てが飛ぶように売れている。弁当類もボリューム満点!!

「今までは、価格で他店との差別化をはかってきたが、大手企業の参入もあり、厳しくなってきた。これからは、初心に戻り、基本的に社員の接客に力をいれていきたい。来店されたお客様が気持ちよく買い物が出来るように、全従業員が挨拶を徹底していく」と、目次店長様から、将来を展望し、力強いお言葉をいただいた。ますます、おだファンが増えるに違いないと確信する。
(長野)



総菜売り場は、オープンキッチンで衛生的です。作りたての総菜が飛ぶように売られています。こちらから排出される廃食油を山陰興業で処分させていただきます。

本店：福山市
山陰地方は、出雲店と斐川店があります。
従業員：約150人
営業時間：9:00～21:00
定休日：1/1～1/4



福島さん、33年間ありがとう、そして、これからもよろしく！



感謝の気持ちを込め、福島社員(写真中央)に花束を贈りました。

福島社員は昭和52年に入社し、4月22日をもって、定年退職となりました。当社でタンククリーニングを初めて実施し、工事部の基礎を作り、また、収集・処理部門などすべての分野に精通している貴重な存在です。今後も引き続き、私たちを指導していただきます。また、これを機にOB会発足の準備を進めていきます。

貴重な人脈と技術の伝承

M石油の現会長様から、石油元売り各社のタンククリーニングを紹介していただき、そのご縁で仕事も拡大し、それによって人脈も広がった。貴重な財産となっている。また、自分が習得した技術を広く伝え残しておきたいと思っている。これからは、若手の人材育成に力を注いでいきたい。自らが実践していくことの大切さをも伝えていく。(福島)

仕事に対する使命感

福島さんとの仕事は、W製鋼所のろ布交換作業からで、叱られながら、仕事を教わった。また、初めての油水分離槽清掃は、わからないことだらけで、ほとんど動けずにいた。ムダの無い作業手順にただ、感心するばかりだった。また、作業の様子をみて、必死で手順を頭に叩き込んだ。回数をこなし、やっと独り立ちできるまでに、指導してもらった。

油流出処理で、一緒に現場へ出ることが多く、そのときの福島さんの作業に対する使命感、困っておられるお客様を一刻も早く助けるといふ思いがとても良く伝わってきて、大いに刺激をもらった。今の自分の原動力となっている。(矢田)

お客様に誠意を尽くす

入社してまもなく川本、邑智方面へ廃油収集に行くことになった。お客様の場所や道すらわからず、途方にくれていた。福島さんに同行をお願いしたら快く受けていただき、川本で二十数件も回り、タンクローリーは満タンで帰社することができた。このときは、廃油収集を教わり、現在は処理係として福島さんの後を継ぐべく教わっている。お客様に対して、精一杯誠意をもって対応される姿に頭が下がる。自分もそのようになりたいと思う。(福岡)



廃液がオーバーフローしてしまった！

お客様先で、ダンパー車で吸い取った廃液をオーバーフローさせる事故が発生した。我が社の車輛管理方法や、作業方法に問題があったのだ。

それは、今までのダンパー吸い取り作業で、満タンになったとき、吸引が止まる構造になっているため、「満タン＝止まる」という固定概念があった。また、ダンパー車の安全点検を定期的に行っていなかった。人員が二人いたにもかかわらず、二人とも吸い取り側で作業していた。

これに対して、今後の対策は、事前にタンク容量等吸い取り数量を把握し、ダンパー車の容量に余裕を持って作業する。当社の車輛において、ダンパー車やバキューム車の構造にある「フロート」を3ヶ月に一回、全車定期点検し、異常等があれば即時交換し不備を直す。

車輛から離れて作業する場合は、車輛側と吸い取り側に一人ずつ配置し、連絡体制が確実になるよう、トランシーバー等を使い、安全に作業する。

自分たちで決めたことは全社一丸となって、確実に実行し、お客様の信頼回復に努めていく。

(エネルギーサポート事業部 福岡)



安全講習

ダンパー車の廃液漏れ事故をふまえ、タンクローリーの「フロート」の点検を行った。

「フロート」が変形していないか、「フロート」が確実に固定できるかを確認した。高い温度の廃油を吸引すると、「フロート」が変形する恐れがある。そうなれば油流出の危険性が高まってくる。昨年も開放して点検を行っているが、今回も不備は無く良い状態だった。



確実な点検で、事故をなくそう！！



一斉清掃の実施
「掃除をすると気づく人になれる」

桜の古木があり、枯れた部分を切り落とすことになった。花は少々咲くものの、大部分の枝が枯れていたのだ。きれいな花がさくのに、枝が枯れては忍びない。ほとんどの枝を切ることになったが、さっぱりときれいになった。

掃除をしてきれいにしていくと、汚いところや危険な箇所がみえてくる。日々きれいにして、ゴミを捨てにくい環境にしていこう。
(長野)



『自動車新世紀勝者の条件』
を読んで



自動車業界は他の業界も巻き込み、日々進化し続けていることを実感しました。私も自動車業界に関わりのある廃油回収をしているので、この先の動きはとても気になります。

キースキルである電池は、覇権をかけた争いをしており、この先の動きには注目したいです。私たち山陰興業も時代に取り残されないように進化していかなければならないと感じます。
(大國)



先進地を訪ねる

4月16日八幡地区防災協議会の先進地視察により、山陰中央新報製作センターを視察させていただいた。山陰中央新報は、山陰地方で最も読まれている新聞であり、私自身も毎日目を通しているので、とても身近だ。

製作センターでの新聞の印刷は、夜11時頃からはじまる。私たちが訪問したときは、機械のメンテナンス中であった。巨大なロール紙が置かれ、紙面の大きさを肌で感じた。新聞は日刊なので、日々の作業は時間に追われ、非常に大変だ。

消火器が各所に設置されていた。年に数回、防災訓練を実施されるそうだ。新聞社は事件・事故を発信するところ。事件・事故が無いよう、願っている。
(長野)



「梨」の花。梨畑に一面に咲くさまは見事です。4月中旬、安来市にて撮影。
(長野)

元氣の出る言葉

中村天風師

あまり好き嫌いのないようになりたい

(「君に成功を贈る」より、日本経営合理化協会刊)

他人に好かれようと思ったら、何よりも自分があまり好き嫌いのないようにすることだと説いている。
与えられた仕事はきちんとこなし、他人には出来る限りのことをしてあげたいと思う。
何か頼まれたら、可能な限り、やってみる。
他人に役立つことが至上の喜びだと感じる。

(長野)



ちょっといい話 8

M社様から、当社の安全性の高さを評価していただきました。当社の安全性も突然高くなったわけではなく、M社様との長いお付き合いの中で、お客様の要求に合わせて、徐々に高くなってきたもので、毎年高くなるお客様の要求にM社様の指導を忠実に守り、継続し続けたことで築くことが出来た信頼であると言っていました。

M社様としては、山陰興業を5年後も10年後も協力会社として関係を保ちたいとの考えで、その為には過去から受け継がれてきた、安全性や技術を人が変わっても今まで以上に磨きを掛けて欲しいと、期待を込めた言葉を頂きました。

また、「山陰興業の社員は、現場で一人一人が次の作業を考えて、誰一人として無駄な動きがなく、手待ちが出ている社員がいないことは、M社の社員でもなかなか出来ないことで、どうしてなのか不思議だ」と言っていました。

これも長い現場経験の中から、先輩から受け継がれてきた当社の風土ではないかと思えます。一つの現場を限られた人数、限られた日数でお客様の要求に応えるためには、全員が無駄なく動いて、協力し合わなければ出来ないことです。

これからも当社のよい伝統、風土を受け継ぎ、また次の時代へ継承していくことがいかに大切なことが、今回の現場訪問で感じました。

この評価をもっと広げて、お客様のためにお役に立ちたいと思います。(安原)



社長が薦める今月の一冊



『100歳の夢』

100年生きて、今が一番幸せだ。 本文より引用
日本ドリームプロジェクト 編集
いろは出版

NHK「おはよう日本」に特集された番組を見て、あらためて本を取り寄せ、読んでみました。京都府の日本海側にある京丹後市という、百寿率（人口10万人あたり100歳以上の方の割合）が全国平均の3倍もある健康長寿の町で、100歳の人にそれぞれの夢を尋ねた。そしてこの本をきっかけに、日本が長生きで、幸せな国になるために、夢を発信したというのです。

人はこの世に生を受ければ、誰しも幸せに、しかも長生きしたいと思うのが普通です。その秘訣はなんだろう？

《昔はでこぼこだらけの道だったけど、そのおかげで今は平坦な道を、ずーっと歩いている心境だ。 井上保さん 100歳 P16》

若いときにはおそらくいろいろあった人たちも、ここに登場する100歳の人たちは、皆笑顔が素晴らしい。気持ちの持ち方次第で、何歳になっても夢がもてることを訴えたいのではないかと。

ぜひ一読を勧めます。(山根)

編集後記

NHKテレビで「ゲゲゲの女房」が放映されている。布枝さんの生家のある大塚町を訪ねてみた。今や観光スポットとして有名になり、夕方にもかかわらず、たくさん観光客がいた。

観光マップが作られ、メイン通りには土産物の屋台が出て、観光客にお茶まで勧めてくれる。ウオーキングマップも作られ、要所ごとにボランティアの方が立ち、道案内をしてくれる。民家の軒先には、水木しげるさんのマンガが描かれた行灯が掛かっている。町全体が、ゲゲゲの女房を応援し、そして観光客を歓迎している雰囲気がとても心地よく感じられた。

夕暮れ時、大山を遠くに眺めながら、田園を歩いていると、妖怪に出会えそうな気がしてきた。(長野)

発行日：毎月10日

発行：690-0025 島根県松江市八幡町796-20

TEL 0852-37-2470 FAX 0852-37-2472

山陰興業(株) ^{エコス}ECO'S通信編集部 長野

E-mail :h.nagano@e-skk.co.jp

印刷：授産センターよつば 印刷係

ホームページ公開中(<http://www.e-skk.co.jp>)

今月のクイズ

解答を下記編集部までお寄せ下さい。応募の方法は、ファックス、電子メール、ハガキ、営業マンに渡していただいても結構です。正解者の中から抽選で1名様に賞品を差し上げます。今月の賞品は、島根産デラウエアです。締切は5月末です。奮ってご応募ください。

Q：奥出雲地方から流れ、宍道湖に注ぐ、大河の名前は何か？

先月号の答えは「堀尾吉晴」でした。抽選の結果雲南市小玉様が当選です。おめでとうございます。

応募用紙(答)

会社名または住所、氏名

FAX 0852-37-2472 E-mail h.nagano@e-skk.co.jp

原稿を公募します 本誌の原稿を公募します。800字～1000字程度で、身近な出来事をテーマにしたものを希望します。随時受け付けます。内容により不採用の場合はお許しください。編集部あて、どんどんお寄せ下さい。薄謝を差し上げます。